

## プレスリリース

# 一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ（JBIB）は、 「JBIB チャレンジ 2020」により、第 3 回目の 生物多様性の保全推進状況評価を行いました

2012 年 6 月 12 日

報道関係各位

### 「JBIB チャレンジ 2020」の第 3 回評価結果について（お知らせ）

一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ\*（JBIB、会長：三井住友海上火災保険株式会社 常任顧問 秦 喜秋、本日現在の会員企業数 49 社）は、事業活動と生物多様性の保全を図るために協働し、生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の実現方法を社会に提供することをめざしています。

そのための一つの方法として、12 の項目からなるチェックリスト「JBIB チャレンジ 2020」を 2010 年に策定しました。その後、各項目の推進状況を JBIB 全体として毎年評価を行いながら、2020 年までに各項目の達成レベルを高めることにチャレンジしています。このたび第 3 回目にあたる 2012 年 4 月 1 日現在の評価を、会員各社が行いました。つきましては、第 1 回目（2010 年実施）、第 2 回目（2011 年実施）と比較を含め、その結果を発表いたします。

第 3 回目の各社の自己評価を集計したところ、12 項目のうち 7 項目で「できている」と回答した企業の割合が 3 年間一貫して増加していました。それ以外の 5 項目も横ばい傾向であり、全体として JBIB の会員企業の取組みが着実に推進されていることがわかりました。さらに特筆すべきは、殆どの会員企業が本業の事業活動の中で生物多様性に配慮していることです（例えば、「生物多様性の保全に関する全社方針と長期および中期目標を策定して取り組んでいる」（88.2%）、「生物多様性の保全に配慮した原材料や物品の調達基準を定めて運用している」（82.3%）、「ライフサイクル全般にわたる生物多様性への影響を配慮した取組みを実施している」（82.3%）、「事業所が生物多様性に与える影響を最小化し、限りなくゼロに近づける努力をしている」（88.2%）等）。JBIB 会員各社は、今後もこうした活動を推進し続けて参ります。

\* 企業と生物多様性イニシアティブは、2012 年 6 月 6 日の第 5 回年次総会において任意団体から一般社団法人になりました。  
アンケート結果の詳細、「JBIB チャレンジ 2020」については、別添資料をご覧ください。

お問い合わせ先：

一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ（JBIB）事務局 〒141-0021 品川区上大崎 1-1-4-102  
株式会社レスポンスアビリティ内  
事務局長：足立直樹 担当：中沢千秋  
電話：03-6303-9799 FAX：03-6303-9798 E-mail：info@jbib.org  
WEB サイト <http://www.jbib.org/>

（添付資料 1：JBIB チャレンジ 2020 集計結果）

（添付資料 2：JBIB チャレンジ 2020）

（添付資料 3：JBIB について）

## JBIB チャレンジ 2020 集計結果

## 1. 回答状況

回答期間：2012年4月25日（水）～5月30日（水）

回答企業数：JBIB 正会員 34 社（2012年5月1日時点の正会員企業）

回答内容：2012年4月1日時点の会員企業各社の取り組み状況について

「できている」と回答した企業：社内で一部でも取り組むことができている企業

## 2. 集計結果（全体）

現状の把握	「できている」と回答した企業		
	今回 2012年6月回答	(参考) 第2回 2011年6月回答	(参考) 第1回 2010年10月回答
事業がどのような点で生物多様性に依存し、その恵みを受けているかを把握し、社内で共有している。	85.2%	80.6%	75.8%
事業がどのような点で生物多様性に影響を与えているかを把握し、社内で共有している。	88.2%	88.9%	78.0%
体制の整備	今回 2012年6月回答	(参考) 第2回 2011年6月回答	(参考) 第1回 2010年10月回答
生物多様性の保全に関する全社方針と長期および中期目標を策定して取り組んでいる。	88.2%	75.0%	60.6%
生物多様性の保全に配慮した原材料や物品の調達基準を定めて運用している。	82.3%	72.2%	66.7%
生物多様性の保全について役員、社員の啓発教育を推進している。	91.2%	91.7%	93.9%
生物多様性の保全を推進するNGOや専門機関等と協働し、支援している。	85.3%	91.7%	84.8%
生物多様性の保全に関する自社の情報を外部に向けて開示している。	88.2%	91.7%	87.9%
保全の実施	今回 2012年6月回答	(参考) 第2回 2011年6月回答	(参考) 第1回 2010年10月回答
生物多様性の価値の高い地域における事業の実施や土地の利用を回避している。	70.6%	64.7%	56.7%
事業所周辺の環境をよく把握し、その地域の生物種、生息地、生態系に配慮して敷地を管理している。	73.5%	65.7%	51.5%
製品やサービスのライフサイクル全般にわたり、生物多様性への影響を配慮した取り組みを行っている。	82.3%	77.8%	72.7%
事業が生物多様性に与える影響を最小化し、限りなくゼロに近づける努力をしている。	88.2%	75.0%	66.7%
地域の文化、生活、経済が生物多様性に支えられていることに配慮し、生物資源（遺伝子資源を含む）の持続可能な利用と公平で公正な利益分配を行っている。	38.2%	42.4%	41.4%

## 2011年度の各社の代表的な取組

- ✓ 国際的な目標である「愛知目標」に準じた「生物多様性長期目標」を策定（住友林業）
- ✓ 木材や紙、パームオイル等の原材料の調達における配慮の推進（花王、凸版印刷、サラヤ、住友林業等）
- ✓ 「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」を用いた事業所のアセスメントの実施（味の素、JSR等）
- ✓ 可能な限り農薬や駆除剤等の使用を低減させる総合的病害虫管理（IPM）の実施（リコー、三菱地所等）
- ✓ 役員及び幹部社員を対象にした専門家による講演会の実施（資生堂、JSR、花王等）

※会社名は略称

以上

## 資料 2

# JBIB チャレンジ 2020

私たち民間企業は、生物多様性と生態系の恵みに依存して事業を行い、同時にまた大きな影響も与えています。生物多様性条約の3つの目的、すなわち、生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用、遺伝子資源の利用から生じる利益を公平かつ公正に分配すること、を果たすために、企業はこれまで以上の積極的な役割を果たすことが求められていると認識しています。

一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB) は、生物多様性の保全に積極的に取り組む企業が集い、事業活動と生態系との調和を願って協働する中で、生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の実現方法を社会に提供することをめざします。

そのために、一般社団法人 JBIB では以下の12項目からなるチェックリストを作成し、各項目の推進状況を一般社団法人 JBIB 全体として毎年評価を行いながら、2020年までに各項目の達成レベルを高めることにチャレンジしていきます。

### 現状の把握

- 事業がどのような点で生物多様性に依存し、その恵みを受けているかを把握し、社内で共有している。
- 事業がどのような点で生物多様性に影響を与えているかを把握し、社内で共有している。

### 体制の整備

- 生物多様性の保全に関する全社方針と長期および中期目標を策定して取り組んでいる。
- 生物多様性の保全に配慮した原材料や物品の調達基準を定めて運用している。
- 生物多様性の保全について役員、社員の啓発教育を推進している。
- 生物多様性の保全を推進する NGO や専門機関等と協働し、支援している。
- 生物多様性の保全に関する自社の情報を外部に向けて開示している。

### 保全の実施

- 生物多様性の価値の高い地域における事業の実施や土地の利用を回避している。
- 事業所周辺の環境をよく把握し、その地域の生物種、生息地、生態系に配慮して敷地を管理している。
- 製品やサービスのライフサイクル全般にわたり、生物多様性への影響を配慮した取り組みを行っている。
- 事業が生物多様性に与える影響を最小化し、限りなくゼロに近づける努力をしている。
- 地域の文化、生活、経済が生物多様性に支えられていることに配慮し、生物資源（遺伝子資源を含む）の持続可能な利用と公平で公正な利益分配を行っている。

以上

## 資料 3

### 一般社団法人 JBIB について

一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ\* (Japan Business Initiative for Biodiversity; JBIB) は、生物多様性に関する取り組みへの意欲の高い企業が集まり、2008年4月に発足致しました。生物多様性に関して、情報を共有し、国際的な視点に立って協働で研究を進め、得られた成果をもとに他の企業やステークホルダーと対話や連携を図ることにより、自社の取り組みレベルを高め、真に生物多様性に貢献する取り組みを進めること目的としています。

2010年には、生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の実現方法を社会に提供することをめざして、「JBIB チャレンジ2020」を策定し、この理念に基づき活動していきます。

一般社団法人 JBIB は、活動目的を達成するため、「1. 企業と生物多様性に関する研究と実践」「2. ステークホルダーとの対話と連携」「3. グッドプラクティスの国内外への情報発信」「4. 生物多様性に関する提言・啓発」「5. その他目的を達成するための事業」の5つの事業を行います。

現時点の会員企業は以下のとおりです。

#### 正会員企業 (34社・50音順)

旭化成株式会社	株式会社資生堂	株式会社日立製作所
味の素株式会社	清水建設株式会社	富士ゼロックス株式会社
アスクル株式会社	住友林業株式会社	富士通株式会社
イオン株式会社	セイコーエプソン株式会社	ブラザー工業株式会社
N T T レゾナント株式会社	積水ハウス株式会社	三井住友海上火災保険株式会社
大阪ガス株式会社	大日本印刷株式会社	株式会社三井住友銀行
花王株式会社	株式会社竹中工務店	三菱地所株式会社
鹿島建設株式会社	株式会社地域環境計画	三菱製紙株式会社
株式会社グリーン・ワイズ	帝人株式会社	株式会社LIXIL
コスモ石油株式会社	株式会社電通	株式会社リコー
サラヤ株式会社	凸版印刷株式会社	
J S R 株式会社	パナソニック株式会社	

※ネットワーク会員は15社

\* 一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ (Japan Business Initiative for Biodiversity; JBIB) は、2012年6月6日、任意団体から一般社団法人になりました。

一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB) の新役員は以下の通りです。

会長 (代表理事) : 三井住友海上火災保険株式会社 常任顧問 秦 喜秋  
副会長 (理事) : 鹿島建設株式会社 常務執行役員環境本部長 塚田 高明  
副会長 (理事) : 株式会社リコー 社会環境本部 本部長 佐竹 宏  
事務局長 (理事) : 株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役 足立 直樹  
監事 : 味の素株式会社 環境・安全部 兼 CSR 部 専任部長 杉本 信幸  
監事 : JSR 株式会社 CSR 部長 久保 達哉

以上